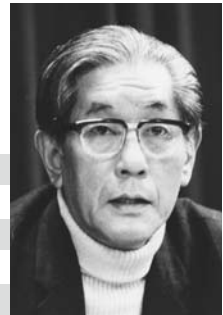


木下順二 略年譜



| | |
|-------------|--|
| 1914 (大正3) | 8月2日、東京市本郷区台町(現・文京区本郷)に生まれる。 |
| 1925 (大正14) | 小学4年時、郷里熊本の小学校に転校。 |
| 1933 (昭和8) | 第五高等学校(現・熊本大学)入学。 |
| 1936 (昭和11) | 東京帝国大学文学部英吉利文学科に入学、英国演劇史の学者を志望。 |
| 1937 (昭和12) | 日中戦争勃発、学問に絶望し、劇作家になることを山本安英に相談、激励される。 |
| 1939 (昭和14) | 『道化——英国演劇におけるその伝統』を卒論として書き、東大卒業。同大学院に進む。歴史劇『風浪』を入学前日に書き上げる(入営は、翌年に延期)。41年大学院修了。 |
| 1943 (昭和18) | 恩師中野好夫の勧めで民話を素材に『鶴女房』『彦市ばなし』『二十二夜待ち』などを書く。 |
| 1946 (昭和21) | 明治大学講師(演劇)となる。『二十二夜待ち』『彦市ばなし』を発表。 |
| 1947 (昭和22) | 『赤い陣羽織』『風浪』『三年寝太郎』発表。シェイクスピア『オセロウ』翻訳。 |
| 1948 (昭和23) | 『彦市ばなし』『赤い陣羽織』を山本安英らと指導した、ぶどうの会で初演。 |
| 1949 (昭和24) | 『夕鶴』『山脈(やまなみ)』発表。『山脈』は民衆芸術劇場(第一次民藝)で初演。『夕鶴』は山本安英とぶどうの会、岡倉士朗演出で10月に関西初演、翌年の東京上演と合わせて大きな反響を呼ぶ。 |
| 1950 (昭和25) | 毎日演劇賞受賞(『夕鶴』の作・演出・美術等各部門)。「暗い火花」を発表。 |
| 1951 (昭和26) | 『蛙昇天』発表(翌年ぶどうの会初演)。アラルコン『三角帽子』脚色。 |
| 1952 (昭和27) | オペラ『夕鶴』を團伊玖磨作曲、藤原歌劇団で初演。明治大学教授となる。モーム『ひとめぐり・おえらがた』翻訳。 |
| 1953 (昭和28) | 『私たちのシェイクスピア』刊。『総合版・夕鶴』刊。『瓜子姫とアマンジャク』、改稿を重ねた『風浪』を、それぞれぶどうの会で初演。 |
| 1954 (昭和29) | 『彦市ばなし』を歌舞伎で初めて菊五郎劇団が上演。『木下順二ラジオドラマ選集』刊。能様式『夕鶴』を武智鉄二演出で上演。改稿4回の決定稿『風浪』を発表、第1回岸田戯曲賞受賞。 |
| 1955 (昭和30) | オペラ『ききみみずきん』を團伊玖磨作曲で初演。 |
| 1957 (昭和32) | 『暗い火花』ぶどうの会試演。『おんによる盛衰記』発表、ぶどうの会で初演。 |
| 1958 (昭和33) | 『赤い陣羽織』、山本薩夫監督で映画化。 |
| 1959 (昭和34) | 『ドラマの世界』刊、毎日出版文化賞受賞。『東の国にて』ぶどうの会初演。 |
| 1960 (昭和35) | 猿之助一座公演『彦市ばなし』を、安保闘争デモに参加しながら演出。第1回訪中新劇公演に『夕鶴』をもって参加。 |
| 1961 (昭和36) | 『沖繩』を発表。『木下順二作品集』全8巻を未来社から刊行開始。 |
| 1962 (昭和37) | 『花若』を西川鯉三郎、山本安英、宮川栄寿郎のために書き下ろし。『オットーと呼ばれる日本人』を発表、宇野重吉演出で劇団民藝が関西で初演。 |
| 1964 (昭和39) | 『冬の時代』を発表、劇団民藝初演。ぶどうの会解散。 |
| 1966 (昭和41) | 山本安英の会第1回公演、演目の『花若・陽気な地獄破り』刊。 |
| 1967 (昭和42) | 『ドラマとの対話』を12回連載。『白い夜の宴』劇団民藝で初演。山本安英の会「こぼしの研究会」発足、その中心となる。 |
| 1968 (昭和43) | 『『平家物語』による群読——知盛』を山本安英の会で発表、のちの『子午線の祀り』への第一歩となる。 |
| 1969 (昭和44) | 『随想シェイクスピア』刊。 |
| 1970 (昭和45) | 長編戯曲『神と人とのあいだ』を発表、第一部『審判』を劇団民藝初演。 |
| 1971 (昭和46) | シェイクスピア『ハムレット』翻訳、刊。 |
| 1972 (昭和47) | 対談集『To Be, or Not To Be』刊。 |
| 1973 (昭和48) | 『シェイクスピアの世界』岩波書店刊。 |
| 1974 (昭和49) | 講談社世界文学全集『シェイクスピア』3巻に「ハムレット」など15編を収める。 |
| 1975 (昭和50) | 「700回を超える『夕鶴』上演を含む半世紀にわたる演劇活動」で山本安英、朝日文化賞受賞。 |
| 1976 (昭和51) | 『龍が見える時』を発表、山本安英の会で初演。 |
| 1978 (昭和53) | 『子午線の祀り』を発表(翌年、読売文学賞受賞)。 |
| 1979 (昭和54) | 山本安英の会『子午線の祀り』第一次公演。 |
| 1980 (昭和55) | 『子午線の祀り』上演関係者全員に毎日芸術賞授賞。 |
| 1981 (昭和56) | 『子午線の祀り』第二次公演。『ドラマが成り立つとき』刊。 |
| 1984 (昭和59) | 『夕鶴の世界——第二次総合版』刊。芸術院会員に選ばれたが「一介の物書きでいたい」と辞退。 |
| 1985 (昭和60) | 『子午線の祀り』第三次公演。 |
| 1986 (昭和61) | 『夕鶴』『子午線の祀り』など長年にわたる劇作活動で朝日賞受賞。 |
| 1987 (昭和62) | 『神と人とのあいだ』第二部『夏・南方のローマンス』劇団民藝で初演。 |
| 1988 (昭和63) | 『木下順二集』全16巻刊、『シェイクスピア』全8巻刊、改訳15編を収める。 |
| 1990 (平成2) | 『『シェイクスピア』全8巻と『木下順二集』全16巻の成果』で毎日芸術賞受賞。『子午線の祀り』第四次公演(全曲上演)。 |
| 1991 (平成3) | 『巨匠—ジスワフ・スコプロンスキ作「巨匠」に拠る』を発表、劇団民藝で上演。『マクベスを読む』岩波ブックレット刊。 |
| 1992 (平成4) | 『子午線の祀り』第五次公演。 |
| 1995 (平成7) | 『“劇的”とは』刊。 |
| 1999 (平成11) | 新国立劇場で『子午線の祀り』上演。 |
| 2000 (平成12) | 新国立劇場でオペラ『夕鶴』上演。『子午線の祀り』英文版、刊。 |
| 2004 (平成16) | 『子午線の祀り』観世榮夫単独演出で上演。 |
| 2006 (平成18) | 『審判—神と人とのあいだ』第一部 劇団民藝で上演。 10月30日、肺炎にて死去。葬儀は遺志で行わない。 |